

別府大学大学院 教育に関する3つの方針

I. 別府大学大学院 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

1、文学研究科 博士前期課程(修士課程) カリキュラム・ポリシー

文学研究科博士前期課程(修士課程)は、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、伝統的人文学領域の創造的継承と新しい学問領域の構築をめざすとともに、時代の要請に応え、地域の知識基盤社会を支える豊かな学識と実践能力を備えた有為な人材を育てることを目的としています。

このような目的を実現するために、ディプロマ・ポリシーに示された高度な専門力、汎用力を身につけ、修士論文を完成するために、以下のようにカリキュラムを編成します。

- ①高度な専門知識の修得のための講義科目を置く。
- ②問題の分析とあらたな展望の提示のための演習科目を置く。
- ③各自の研究テーマ、研究計画に基づき進捗状況を把握しながら指導教員による論文指導を行う。

またカリキュラムの実施に当たっては、各専攻の教育目標に従って、講義・指導の担当者がシラバスを作成し、科目の到達目標、学習内容、成績評価の方法、事前準備などを明示し、自己点検・自己評価を行い、FD活動を通じて、教育の改善を図るように留意します。さらに、研究指導においては、研究の進捗状況を把握し、適切な指導ができる体制を確保します。

(日本語・日本文学専攻)

日本語・日本文学専攻では日本語・日本文学の領域で専門的知識を習得し、自らが設定したテーマによる修士論文作成ができるようなカリキュラムを編成します。そのために日本語、日本文学について、それぞれ時代別のあり方を理解することで伝統の継承と理解を深めることができるような各科目を設定しています。また、編成の上で 国際的視野から広く対象をとらえることにも重点を置き、比較文学研究、日本文化論などの科目を設置しています。

(史学・文化財学専攻)

史学・文化財学専攻では、多岐にわたる領域(日本史、東洋史、世界史、アーカイブス学、考古学、文化財保存学、民俗学、美術史学、地理学など)を通して幅広い知識と技能を修得し、研究テーマの設定や修士論文を作成できるようなカリキュラムを編成します。そのうえで、日本史・東洋史・西洋史領域では、研究史整理と原典を含む文献史料の読解力、洞察力を高める科目、アーカイブス領域では、行政文書や古文書などさまざまな文書記録の正確な読解と保存管理の理論と技法の科目、文化財と文化の継承のための高い専門知識を修得できる科目、現地調査の実践力を高める科目を設定しています。また領域相互の交流により、高い専門性を有するとともに国際的視野や地域に即した発想で研究対象 を捉えることができる人材を育成することをめざします。

(臨床心理学専攻)

心の健康の保持増進をめざし、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の5分野における心理に関する支援の技能を身につけ、さまざま職種と協働しながら主体的に実践できる人材を養成します。

2、文学研究科 博士後期課程 カリキュラム・ポリシー

文学研究科博士後期課程は、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、博士論文の作成を通じて、研究者として自立できる高度な研究能力と豊かな学識を養うために、指導の目標を明示し、論文作成計画に基づいた研究指導を実施するとともに、学会などの場における発表の機会を設け、研究能力の向上を図ります。

このような本課程の方針に基づき、各専攻は以下の方針で研究指導を行います。

(日本語・日本文学専攻)

日本語・日本文学の研究において学会の研究の水準に基づきながら独創性を持った論文作成ができるように専門知識と理論を習得させます。また、研究者としての自覚を高めるために学会に積極的に関わらせ専門分野で次代を担うことのできるように研究能力の向上を図った上で、博士論文作成を目標に指導します。

(史学・文化財学専攻)

専門とする領域(日本史、東洋史、西洋史、考古学、文化財保存学、民俗学、美術史学、地理学)において、高度な専門性と技能を修得するように指導を行います。学会等で研究価値のある発表

ができ、学術雑誌等に論文投稿ができるよう、裏付けとなる方法論と技法、理論を修得させるよう指導します。博士論文の作成を通じて自立した研究者の育成をめざします。

3、食物栄養科学研究科食物栄養学専攻 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに示された学修成果(到達目標)に対応して、以下の科目区分を置き、それぞれの科目区分の要請する内容を偏りなく、包含する諸科目を設定する。

(栄養科学研究領域)

- ①社会・環境と健康の関係、公衆衛生及び疫学のシステム研究力
- ②人体の機能や医学・生理学研究力
- ③食品の栄養特性・物性と食品成分の人間生活・健康に与える影響および食品の加工保蔵・調理学研究力
- ④健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養素の役割および代謝の分子栄養学的研究力
- ⑤ライフステージの変化に伴う栄養状態の変化と食事運動指導・栄養管理研究力
- ⑥食育・食行動に関する情報の収集・分析および栄養教育計画の作成・実施・評価と行動科学・カウンセリング研究力
- ⑦傷病者・クライアントの病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、栄養管理プロセスに関する研究力
- ⑧国や地域社会の健康・栄養問題や政策活動、関連要因の情報収集・課題分析研究力
- ⑨給食運営に伴う栄養面・安全面・経営面の総合的マネジメントの研究力

(食品科学研究領域)

- ①食品素材や食品加工で生じる物理化学的な現象に関する研究力
- ②多様化する食糧問題へのバイオテクノロジーによるアプローチに関する研究力
- ③発酵食品の製造方法、機能性を理解し、新たな製品を開発する研究力
- ④香料や香り物質の分子構造の解明に関する研究力

(応用生物学研究領域)

- ①ヒトや微生物の分子生物学的研究力
- ②生物の遺伝や酵素等の生命の仕組みに関する研究力
- ③環境に偏在する微生物とヒトの関わりに関する研究力
- ④微生物の有用な機能を見出し、利用・応用する研究力

(研究基盤領域)

- ①修士論文研究を通じた課題発見とその客観的分析と解決のために必要な知識・技能
- ②公正研究に必要な研究倫理・利益相反マネジメントの知識
- ③自然科学論文研究に必要な情報リテラシーと統計学の知識・技能

II. 別府大学大学院 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1、文学研究科 博士前期課程(修士課程) ディプロマ・ポリシー

学士課程で修得した幅広い教養、専門力、汎用力を、さらに組織的な教育・研究体制ならびに体系的な教育課程のもとで発展させ、深い学識と研究方法を身につけ、その成果として、十分な学問的水準に到達した学位論文を作成した学生に対して最終審査を行い、これに合格した者に対して、修士(文学)の学位を授与します。

- ①学位の客観的水準を確保するため、最終試験の発表を公開します。
- ②専攻分野について深い学識と研究能力の有無を確認するために最終試験を実施します。
- ③審査に当たっては、専門職にふさわしい知識、技能、研究への意欲を持つかなどについても加味し、評価します。また、広い視野にたった学識、高度な専門技能を備え、高度な専門性を必要とする職業を担うための能力を身につけているということを鑑み、社会的意義から専攻分野において修得した深い知識と倫理観により問題を分析し、新たな展望を開くことができるという点を重視します。

(日本語・日本文学専攻)

上代から現代に至る時代の日本語・日本文学を体系的に理解するとともに専門的な文献、資料の読解ができる能力を習得し、先行する研究を正確に理解した上で現代の研究水準にふさわしい論理的思考により自らの研究成果を発表することができる学生に学位を授与します。

(史学・文化財学専攻)

○日本史・東洋史・西洋史・アーカイブス学の領域では、先行研究の業績内容を正しく理解して、批判すべき点は正当な手続きを経て批判できる方法論を修得している学生に対し学位を授与します。

○歴史史料について、日本史領域では、古文書等の文献史料を正確に解読して内容を理解する知識を修得し、それをもとに専門的な修士論文を構想し、正しく執筆できる能力を持っている学生に対し学位を授与します。

○歴史史料について、東洋史領域、西洋史領域では、外国語の文献史料を正確に読解して内容を理解する知識を修得し、それをもとに専門的な修士論文を構想し、正しく執筆できる能力を持っている学生に対して学位を授与します。

○アーカイブス学領域では、行政文書・古文書等の文献史料を正確に読解するだけでなく、それを保存・整理・管理する論理と実務能力を修得し、それをもとに専門的な修士論文を構想し、正しく執筆できる能力を持っている学生に対して学位を授与します。

○考古学、文化財保存学、民俗学、美術史学、地理学の領域では、祭礼から発掘調査等まで幅広く、地域の文化財に関する専門知識と技能を修得し、収集した資料や分析などから得た情報を適確に解析できる能力を身につけ、文化財関係の教育・専門職として地域の活性化や文化継承の核となり、社会に寄与できると判断された学生に対して学位を授与します。

○「先行研究の業績内容を正しく理解して、批判すべき点は正当な手続きを経て批判できる方法論」は、全ての科目に含まれるが、とくに特殊研究の科目、演習科目で重視している。

○日本史領域の「古文書等の文献史料を正確に解読して内容を理解する知識を修得」も、日本史関係科目全てに共通するが、とくにテーマ研究「史料学研究(I, II)」に重点化している。

○東洋史・西洋史領域の「外国語の文献史料を正確に読解して内容を理解する知識を修得」は、特殊研究「西洋史研究(IA~IIB)」、「東洋史研究(A, B)」で重視している。

○アーカイブス学領域の「行政文書・古文書等の文献史料を正確に読解するだけでなく、それを保存・整理・管理する論理と実務能力を修得」は、特殊研究「アーカイブズ学研究(A, B)」などが担保しており、とくに実務能力は、演習「アーカイブズ学演習」での公文書館インターンシップ、テーマ研究「アーカイブス研究(I~III)」での実務経験者の講義や現場見学などで、修得できるよう設定している。

○考古学、文化財保存学、民俗学、美術史学、地理学の領域では、「地域の文化財に関する専門知識と技能を修得」ができるよう、特殊研究科目群(「考古学研究(IA~IIIB)」、「民俗学研究(A, B)」、「文化財保存科学研究(A, B)」、「文化財保存修復研究(A, B)」、「美術史学研究(A, B)」、「地理学研究(A, B)」)、演習科目群を設定している。「資料や分析などから得た情報を適確に解析できる能力」はとくに演習科目で涵養される。「地域の活性化や文化継承の核となり、社会に寄与できる」実務者養成のために、テーマ研究「文化財学研究(I~VIII)」に多彩な実務経験者を多く配置している。

(臨床心理学専攻)

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働のいずれかの分野において、心理的な支援に関する相談、助言、指導、教育を専門的に行い、さらに心理的諸問題の背景にある事象を分析することができる学生に対し学位を授与します。

2、文学研究科 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

文学研究科では、所定の年限在籍し、所定の研究指導を受け、博士論文の最終試験に合格した者に対して、学位規定の定めるところにより博士(文学)の学位を授与します。原則として学外の教員・研究者等として活動できる研究能力を有しているかを基準に最終試験を公開して判定を行います。

学位授与にあたっては、以下の点に到達していることが求められます。

①博士前期課程で培った学識、技能を発展させ、高い倫理観のもと、自立した研究を推進する能力があること。

②専攻文献を的確に理解し、学問の水準にあった研究成果を発表できること。

このような本課程の方針に基づき、各専攻は以下の学位授与の方針に基づき学位を授与します。

(日本語・日本文学専攻)

日本語・日本文学の分野において次のような学生に対し学位を授与します。

①専門的な高度の知識を習得し、その専門知識を基礎として博士論文を作成できる能力を有すること。

②先行研究を理解し、専門分野の研究の深化に貢献できる能力を有すること。

③先行研究を理解し学問的水準を持つとともに独創的な視点による研究能力を有すること。

(史学・文化財学専攻)

・日本史・東洋史・西洋史の3領域において次のような学生に対し学位を授与する。

- ①専門的な高度の知識を修得し、その専門知識を基礎として博士論文を作成できる能力を有すること。
- ②先行研究の業績を十分理解したうえで、その先行業績を批判的に発展継承できる能力を有すること。
- ③これまでの先行研究にはない、独創的かつ先端的な研究を確立して推進できる能力を有すること。

・考古学・民俗学・美術史学・文化財保存学・地理学の領域において次のような学生に対して学位を授与する。

- ①文化財に関する高度な専門知識と技能、優れた資料収集能力やデータの解析能力を修得し、その専門知識を基礎として博士論文を作成する能力を有すること。
- ②先行研究の業績を踏まえつつ、独自の視点で研究を発展させる能力を有すること。
- ③研究者や文化財関係の教育・専門職として社会に寄与できると判断できること。

3、食物栄養科学研究科食物栄養学専攻 ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得して、次のことを修得しており、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

- ①食、健康、生命科学に関する最先端の専門的な各分野を横断的に理解し、高い専門的な能力を修得している。
- ②臨床・公衆栄養分野、栄養食事指導・食事運動指導などの活動において最先端の知識と実践的な指導力を修得している。
- ③生命科学に関する基礎的理解があり、分子生物学の専門分野に関する最先端の知識・技術・技能を修得している。

III. 別府大学大学院のアドミッションポリシー

1、文学研究科博士前期課程(修士課程)アドミッション・ポリシー

文学研究科博士前期課程(修士課程)は、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、伝統的人文学領域の創造的継承と新しい学問領域の構築をめざすとともに、時代の要請に応え、地域の知識基盤社会を支える豊かな学識と実践能力を備えた有為な人材を育てることを目的としています。このような目的を実現するために、本課程では、次のような学生を受け入れます。

- ①研究を遂行できる基礎的資質をもった学生
- ②探求への情熱をもち、知識修得の意欲と明確な研究目標をもつ学生
- ③地域社会を担うことへの強い関心と意欲をもつ学生
- ④国際的な視点で物事を考え、異文化への理解を深めたいと願う学生

このような本課程の受入れ方針に基づき、各専攻は以下のような学生を受け入れます。

(日本語・日本文学専攻)

日本語・日本文学における伝統の継承に強い意欲を持ち、それを対象とした研究を遂行できる資質をもつとともに、国際的な視野から日本語・日本文学を理解することを望む学生。

(史学・文化財学専攻)

本専攻は、史学と文化財学の領域から構成されます。史学の領域では、日本における史学の伝統的な枠組みである、日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの学問領域について基礎的知識を有し、歴史的専門知識の修得に意欲があり、研究を遂行できる基礎的資質を持った学生。文化財学領域では、考古学、環境歴史学、民俗学、観光地理学、文化財保存学、美術工芸、美術史など文化財に関する分野の調査・研究について学びたいという強い意欲をもち、それを遂行できるだけの学力をもっている学生。また同時に、それぞれの専門性を前提に領域を越えた融合をめざすことが特色となっておりますので、広い領域への探求心をもった学生。

(臨床心理学専攻)

臨床心理学分野の研究遂行の基礎的資質とともに、心理援助の実践者(こころの専門家)となりうる資質を備えている学生。人間に対する暖かい関心をもち、冷静に率直に自分を見つめることができる学生。

2、 食物栄養科学研究科食物栄養学専攻修士課程アドミッション・ポリシー

食物栄養科学研究科は、21世紀における人類の健康的な生活を支援するため、最新の知識に基づいた生命、健康、食の科学と応用を総合化した教育と研究を行い、食、栄養、バイオテクノロジー等の高度な幅広い知識と技術を備えた有為な人材を育成することを目的としています。このような目的を実現するために、本課程では、次のような学生を受け入れます。

- ①食・栄養や健康に強い関心を持ち、生命科学の基礎的な知識を有している人
- ②急速な高齢化社会の進展に対応できる「食と栄養」に関連した領域の高度専門職業人、研究者、教育指導者として活躍する意欲を有している人
- ③地域住民の医療・健康・福祉の向上ならびに地域社会および国際社会の発展に寄与する意欲を有している人

3、 文学研究科博士後期課程アドミッション・ポリシー

文学研究科博士後期課程は、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、博士論文の作成を通じて、研究者として自立して活動できる高度な研究能力と豊かな学識を養い、教育職や博物館・美術館などの専門職を目指す有為な人材を育成することを目的としています。このような目的を実現するために、本課程では以下のような学生を受け入れます。

- ①修士学位取得者およびそれに相当する能力をもつ人
- ②本学の建学の精神を理解する人
- ③高度でかつ専門的な研究に取り組む意欲のある人

このような本課程の受入れ方針に基づき、各専攻は以下のような学生を受け入れます。

(日本語・日本文学専攻)

日本語・日本文学において独創性を持って真理の探究を遂行する能力があり、高度で専門的な研究に取り組む意欲のある人。

(史学・文化財学専攻)

幅広い史学・文化財学のカテゴリーを前提に、学生には融合的、横断的に教育・研究を進めさせるとともに、専門領域研究を深化させ、その領域の研究をリードできる研究者の資質を有する学生。